

入選

当たり前ではなかった水

水戸市立第四中学校

三年 鈴木 一花

私たちは水がないと生きていくことができません。水は人の身体の約六十〜七十パーセントをしめていて、水がなくなると命や健康に大きな影響が出てしまいます。でも、私が住んでいる日本では、蛇口をひねれば当たり前のように水が出てくるし、コンビニや自動販売機でも簡単に水を買うことができます。だから今までの私は、水の大切さについて深く考えたことがありませんでした。水はあって当たり前のものだと思っていたのです。

しかし、そんな私の考えを変える出来事がありました。ある日の朝、マンションの共用部分のブレーカーが落ちてしまい、水が使えなくなったのです。最初は何が起きたのかよく分からず、いつも通りに

蛇口をひねりました。でも水は出てきませんでした。そのとき、私はとても驚き、不安な気持ちになりました。水が使えないというのは思ったよりもずっと大変なことでした。朝起きてすぐに顔を洗うことができず、すっきりしないまま過ごすことになりました。手も洗えないので、なんとなく不潔な感じがして落ち着きませんでした。また、トイレを流すこともできず、普段何気なくやっていることができなくなっていました。そのとき、「水が使えないだけで、こんなにも生活が不便になるんだ」と強く感じました。

今までは水がなくなることなんて考えたこともなかったのに、このとき初めて、水は無限にあるわけではないんだと気づきました。そして、水が使えることがどれだけありがたいことなのかを実感しました。

この出来事をきっかけに、私は今までの自分の行動を振り返りました。これまで私は、手を洗うときに水を出しっぱなしにしたり、お風呂でシャワーを長く使いすぎたりしていました。特に意識もせず

に水を使っていたと思います。でも、それは水がい
つでも使える環境に慣れてしまったからだと思いま
した。

また、世界には安全な水を十分に使えない人た
ちがいることを思い出しました。テレビやニュース
などで、水をくみに行くために長い距離を歩かなけ
ればならない人がいると聞いたことがあります。そ
う考えると、自分はとても恵まれた環境にいるのに、
水を大切にできていなかったのではないかと思い、
少し反省しました。

さらに、日本でも地震や台風などの災害で水が
使えなくなることがあると知りました。今回の出来
事は短い時間で終わりましたが、もし何日も続いた
らと思うと、とても大変だと思います。そう考える
と、普段から水を大切に使うことや、いざという
きのために備えておくことも大切だと感じました。

この経験を通して、私は水に対する考え方が変
わりました。水は当たり前にあるものではなく、生
活を支えてくれている大切なものと分かりました。
これからは、水を無駄にしないように気をつけ

て生活していきたいです。例えば、手を洗うときに
はこまめに蛇口を閉めたり、お風呂のシャワーの時
間も少し意識して短くしたいと思います。しかし、
これを一人だけがしても大きな変化にはつながらな
いと思います。なので、たくさんの人に水の大切さ
を分かってもらいたいです。

そして、水が使えることに感謝する気持ちを忘
れずに過ごしていきたいです。今回の経験で、当た
り前だと思っていたことの大切さに気づくことがで
きました。これからは、その気持ちを大切にしながら、
水を大事に使っていききたいと思います。そして、
この気持ちをこれからも忘れずに生活していきたい
です。